

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

小学校社会科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って明確化した。また、「社会的な見方・考え方」については、小学校社会科の特質を踏まえ、「社会的事象の見方・考え方」と言い換え、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善を図った。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

「内容」については、その示し方が、以下のとおり大きく改められています。

[A] について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識や技能を身に付けること。

(ア) [B] を理解すること。

(イ) [C] などで調べて、[D] などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) [X、Y、Z] などに着目して、[E] を捉え、[F] を考え、表現すること。

※ A = 学習のテーマ B = 知識（理解させたい事柄） C = 調べる技能

D = 調べたことのまとめ方の技能 E = 調べる活動を通して捉えさせたい事実

F = 考えさせること X、Y、Z = 調べる視点（着眼点）



(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- 第3学年と第4学年の目標と内容について、系統的、段階的に整理して示した。また、地図帳の使用を第3学年からとした。
- 内容について、中学校への接続・発展を視野に入れて、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活、の三つに整理した。また、①、②は空間的な広がり念頭に地域、日本、世界、③は経済・産業、政治及び国際関係、と区分して整理するよう改善を図った。
- 我が国や地方公共団体の政治の仕組みや働き、世界の国々との関わりに関心を高めるとともに、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考える学習の充実を図った。また、人口減少や地域の活性化、国土や防災安全に関する内容の充実を図るとともに、情報化による生活や産業の変化、産業における技術の向上などに関する内容についても充実を図った。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

児童の実態や教材の特性を考慮して学習過程を工夫し、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、主として用語・語句などを含めた具体的な事実に関する知識を習得することが大切である。また、それらを踏まえて、社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得するよう、問題解決的な学習を展開することも大切である。さらに、学んだことを生活や社会に向けて活用する場面では、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断することなどの活動を重視することも大切である。

◆主体的な学びについて

児童が社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組むようにすることが求められる。そのためには、学習対象に対する関心を高め問題意識をもつようにするとともに、予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること、また、学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりすること、さらに、学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることが必要である。

◆対話的な学びについて

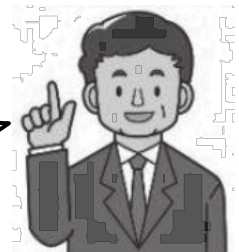
学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話合いや討論などの活動を一層充実させることが求められる。また、実社会で働く人々から話を聞いたりする活動についても今後一層の充実が求められる。さらに、対話的な学びを実現することにより、個々の児童が多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにすることも大切である。

◆深い学びについて

社会的事象の見方・考え方を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、調べ、考え、表現する授業を実現するためには、教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫することが大切である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については、新学習指導要領の総則の趣旨を踏まえて、「単元のまとめ」を見通しながら、工夫することが大切です。



③見方・考え方について

「社会的な見方・考え方」は、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」である。

「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現している。

視点	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目する。
方法	社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする。

④移行措置について

平成30年度及び平成31年度の第3学年から第6学年までの社会の指導に当たっては、その全部又は一部について新小学校学習指導要領の規定によることができる。ただし、現行小学校学習指導要領による場合には、次のとおりとする。

年度	学年	内容
平成30年度 平成31年度	5学年	新学習指導要領の内容の(1)「我が国の国土と国民生活」の(ア)のアを先行して実施し、「世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解」できるようにする。その際、「領土の範囲」については、「竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れる」ようにする。
平成31年度	3年生	現行の学習指導要領の以下の内容について指導する。 (1)「自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)」 (2)「地域の人々の生産や販売」 (4)「地域社会における災害及び事故の防止」 (5)「古くから残る暮らしにかかわる道具、それを使っていたころの暮らしの様子」 その際、内容の(4)「地域社会における災害及び事故の防止」においては、内容の取扱いに示されている災害の選択肢「火災、風水害、地震など」の中から「火災」を取り上げ、自然災害は取り上げないようにする。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、学習の問題を追究・解決する活動、すなわち問題解決的な学習過程を充実させることが大切になる。

問題解決的な学習とは、単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指している。問題解決的な学習過程の充実を図る際には、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。

考えられる視点例	視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例
○位置や空間的な広がり の視点 地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など	<ul style="list-style-type: none"> どのように広がっているのだろう なぜこの場所に集まっているのだろう 地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろう
○時期や時間の経過 の視点 時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など	<ul style="list-style-type: none"> いつどんな理由で始まったのだろう どのように変わってきたのだろう なぜ変わらずに続いているのだろう
○事象や人々の相互関係 の視点 工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる)など	<ul style="list-style-type: none"> どのような工夫や努力があるのだろう どのようなつながりがあるのだろう なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう

○授業展開例

(1) 単元名 わたしのまち みんなのまち (第3学年)

(2) 目標 A町の土地の様子を地形的な条件や社会的な条件と関連付けて考えることができる。

(3) 学習展開 (例)

	学習過程の例	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援と評価
課題把握	●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する	1 本時の学習課題を確認する。	○2枚の写真を比較して、どこが違うか考えてみよう。 南側 → 家が多い、車が多い 北側 → 自然が豊か、家が少ない	・2枚の写真(北側・南側)を提示し、同じ町内でも土地の使われ方や様子が違うことに気付かせる。
	●課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する ・学習計画を立てる	【10の視点】 ①魅力的な課題の提示	○町の様子が、場所によってどう違うか予想してみよう。 写真や資料等を提示し比較するなどして、児童が気付いた疑問から学習課題を設定すること、そしてその課題解決に向けて予想や仮説を立て学習することが 主体的な学び につながります。	
情報収集	●予想や仮説の検証に向けて調べる ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の児童と情報を交換する	2 町全体の様子を表や白地図にまとめる。	○B川周辺とC駅周辺の様子はどうなっていたらいいだろう。 ・B川の周りは、畑が広がっていた。 ・C駅周辺は、店や家が多かった。	・見学したときのB川周辺とC駅周辺の写真を提示する。 ・児童の発表を表に書き込み各地域の様子を整理する。
	●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する。 ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実	子ども同士の 対話的な学び は、社会的な事象を様々な視点で捉えるなど、多様な「見方・考え方」につながります。	
課題追究	●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する。 ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	3 北側に家が集まる理由について考える。 (一人学び)(グループ)(全体)	○表にまとめてみて、気付いたことを発表しよう。 ・北側には、家や店、道路があった。 ・にぎやかな所は北側にある。 ・南側には家は少ないけど土地が広く山が多い。 ◎なぜ、土地の広い南側でなく、北側に家がたくさん集まっているのだろう。 ・北側には、鉄道や国道があり、出かける時にすぐいけるから。 ・店がたくさんあるほうが買い物に便利だから。 ・北側には、平らな土地が多く広がっているから。	・発表したことを白地図にまとめて記入することで、大まかな様子をつかませる。 ・一人ずつ地図を配って考えノートにまとめさせることで土地利用の様子と、地形的条件や社会的条件を関連付けて考えることができるようにする。
	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の児童と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	【10の視点】 ③資料の活用	道路の位置や地形の様子などが分かる地図などを提示して、土地の利用と地形を比較し関連付けるなど、視点を持ち考えることが「社会的事象の見方・考え方」を働かせることにつながります。	
課題解決	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の児童と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	ただ地図を提示するだけでは、児童は空間的な広がりに着目することはできません。「分布」「広がり」「自然条件」など、視点を意識して資料を活用できるよう、発問や提示の仕方を工夫することが大切です。		
	●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする	4 次時の学習課題をつかむ。	○見学に行って、もっと調べてみたいと思ったことは何だろう。 ・A町他の所はどうなっているのだろう。 ・土地の高さと土地の利用の仕方について調べてみたい。	・A町について興味・関心を持ったことを発表させ、次時の学習計画作りにつなげる。
新たな課題				

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ」、「課題を追究したり解決したりする活動を通して」、(1)～(3)にある「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された資質・能力を育成することを目指すことと示された。

- (1) 「知識及び技能」については、社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能が求められる。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」については、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力が求められる。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」については、主体的に学習に取り組む態度と、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情などが求められる。

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

◇社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力を養うためには、伝統・文化等に関する様々な理解を深めつつ、将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。具体的には、グローバル化への対応、持続可能な社会の形成、情報化等による産業構造の変化、防災・安全への対応や海洋国家である我が国の国土の様子、選挙権年齢の18歳への引き下げに伴う課題への対応に留意した政治参加、少子高齢化等による地域社会の変化などを踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。

◇各分野における改訂のポイントは以下の通り。

地理的分野	ア	世界と日本の地域構成に関わる内容構成の見直し
	イ	地域調査に関わる内容構成の見直し
	ウ	世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入
	エ	日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化
	オ	日本の様々な地域の学習における防災学習の重視
歴史的分野	ア	歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視
	イ	歴史的分野の学習の構造化と焦点化
	ウ	我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実
	エ	主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実
	オ	様々な伝統や文化の学習内容の充実

公 民 的 分 野	ア 現代社会の特色、文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視
	イ 現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実
	ウ 現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実
	エ 社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習の重視
	オ 国家間の相互の主権の尊重と協力、国家主権、国連における持続可能な開発のための取組に関する学習の重視
	カ 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	主体的な学びについては、生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。
対話的な学び	対話的な学びについては、例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘されることであり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。 また、主体的・対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的である。
深い学び	深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。

③見方・考え方について

◇「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。社会科としての本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することなどを踏まえ、資質・能力全体に関わるものであると考えられる。

◇各分野の特質に応じて整理した「社会的な見方・考え方」

社会的事象の地理的な見方・考え方	「社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて働かせるもの。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりして働かせるもの。
現代社会の見方・考え方（公民的分野）	「社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせるもの。

◇各分野の特質に応じた視点や、単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが求められる。

○各分野の『考えられる視点の例』と、『視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例』

分野	視点の例	「問い」の例
地理的分野	位置や分布	「それはどこに位置するのか」「それはどのように分布するのか」
	場所	「それはどのような場所なのか」
	人間と自然環境との相互依存関係	「そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」 「そこでの生活は、周囲の自然環境にどのような影響を与えているか」
	空間的相互依存作用	「そこは、それ以外の場所とどのような関係をもっているのか」 「なぜそのような結び付きをしているのか」
	地域	「その地域は、どのような特徴があるのか」「この地域と他の地域ではどこが異なっているのか」「どのような地域にすべきか」
歴史的分野	時期や年代	「いつ(どこで、誰によって)おこったか」
	推移	「前の時代とどのように変わったか」
	比較	「どのような時代だったのか」
	相互の関連や現在とのつながり	「なぜ、おこった(何のために行われた)か」「どのような影響を及ぼしたか」 「なぜそのような判断をしたと考えられるか」「歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか」
公民的分野	対立と合意、効率と公正など	「よりよい決定の仕方とはどのようなものか」「なぜきまりが作られるのか」 「私たちにとってきまりとは何だろうか」
	分業と交換、希少性など	「なぜ市場経済という仕組みがあるのか」「どのような機能があるのか」 「なぜ金融は必要なのか」「どうしてそのような仕組みがあるのか」
	個人の尊重と法の支配、民主主義など	「人間の尊重とはどういうことか」「それはどのような方法で実現できるのか」 「なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのか」「民主政治をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要か」
	協調、持続可能性など	「世界平和と人類の福祉の増大のために、世界の国々ではどのような協力が行われているのか」 「地球上にはどのような問題が存在し、その解決に向けて国際社会はどのような取組を行っているのか」

それぞれの視点を生かした問いの考察、構想を重ねることで、現実の社会的事象等から課題を見だし解決に向かう社会科ならではの、生徒の将来に生きて働く「見方・考え方」を働かせることができるようになることが期待されます。



④移行措置について

年度	内 容
H30年度～H32年度	現行中学校学習指導要領第2章第2節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第2節の規定によることができる。
H30年度～H32年度	「領域の範囲や変化とその特色」（地理的分野）、「富国強兵・殖産興業政策」（歴史的分野）、「世界平和と人類の福祉の増大」（公民的分野）の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。
H31年度～H32年度	地理的分野及び歴史的分野の授業時数の配当について、新学習指導要領の規定により、授業時数を両分野に適切に配当する。
	「世界の諸地域」（地理的分野）の指導に当たり、「世界の様々な地域の調査」を併せて指導する。 「世界の古代文明」「ユーラシアの変化」「ヨーロッパ人來航の背景」「市民革命」（歴史的分野）の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元構成例

単元を貫く問い	学習目標	本時における中心となる問い
「主権者として大切にすべきことは何だろうか？」	1 政治の目的は、人々の願いを実現し、よりよい社会を実現することであることを理解する。	何を目的として「政治」は行われるのだろうか。
	2 選挙は政治参加の重要な機会であることを理解し、具体的な作業を通して選挙制度のあらましを理解する。	日本の政治において、選挙はどのように行われているのだろうか。
	3 選挙に関する課題について、主権者の立場から具体的な事例を通して考え、表現する。	日本の選挙における問題点の中で、最も重要な課題は何だろうか。
	4 政党が国民と議会を結び付ける役割を果たしており、民主政治において重要な存在であることを理解する。	政治において、政党はどのような役割を果たしているのだろうか。
	5 公正な世論形成のために、マスメディアや国民一人一人はどうあるべきか考え、表現する。	私たちは政治の情報や動きをどのように手に入れているのだろうか。

(2) 授業展開例 公民的分野 政治参加と選挙 (第3時)

学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】方法※手だて
1 選挙の課題について考える	<p>○日本の選挙には、どのような課題があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投票率が低いこと ・一票の格差が大きいこと <p>日本の選挙における問題点の中で、最も重要な課題は何か、考えよう。</p> <p>○資料をもとに、選挙の課題について班で話し合い、最も重要な課題だと思う順に班でランキングをつけよう。</p> <p>A 投票率の低下 B 一票の格差 C 死票の多さ D 選挙費用 E 選挙違反</p> <p>○班ごとにランキングを発表し、クラスで議論をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードにまとめたランキングを黒板に並べ、順に発表する。 <p>○本時の学習をふりかえろう。</p> <p>①学習内容を踏まえて、「日本の選挙の課題」と「自分が考える最大の課題」について</p> <p>②自己の考えの変容や参考になった仲間の意見について</p>	<p>・留意点 ○評価【観点】方法※手だて</p> <p>【10の視点】①魅力的な課題・教材の提示</p> <p>既習事項、身近な話題などに関連させながら、前向きに考えられる、又は考えられそうだと、見通しの持てるような課題を提示することが大切になります。</p> <p>【10の視点】⑥学び合う活動の充実</p> <p>公民的分野では、ただ話し合うのではなく、「対立と合意」「効率と公正」の概念や理論を通して社会的事象間の関係を捉え、課題解決の方法を考えることが大切です。</p> <p>【10の視点】⑤説明・発表の機会の充実</p> <p>話し合いや発表では、確たる根拠を示すことが、「社会的な見方・考え方」を鍛えることになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びをふりかえらせ、選挙の課題について、具体的に書いていくよう促す。 ・仲間どうし認め合い、高め合うことで、今後の学習意欲につなげる。



新しい取組や研究と併せて、これまでの授業や指導案をふりかえり、例えば「生徒が自分事として捉え、進んで考えようと思えるような問いになっていたか？」と見直し、修正、実践することも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、大切に考えていきたい点です。